

老健 リハビリ実績

利用者情報 80歳代女性 脊椎圧迫骨折 要介護5

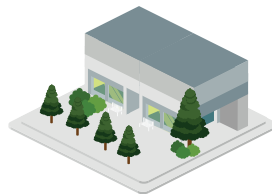
入所

経過

脊椎圧迫骨折の診断で入院。
離床時に眩暈や嘔気を認めることがあり、自宅への退院が困難であったため、当施設へ入所となりました。

目標


自宅復帰（ご家族と同居）



FIM : 機能的自立度評価

日常生活動作の自立度を
評価する指標

介入当初 **75**点 ▶ 現在 **110**点
※改善項目：移動、トイレ動作、更衣、排尿・排便管理

	介入当初	現在
動作レベル	施設内は車椅子移動	施設内 押し車自立 独歩での掃除、洗い物や洗濯などの 家事動作も可能
ご本人希望	歩いて自宅へ帰りたいけど… 様子：歩行練習よりも腰背部痛に対するマッサージを欲しいと話され、運動には消極的。リハビリで自主トレを促しても定着せず	家族の迷惑にならないよう自分の事と入院前にやっていたことをできるようになりたい 

リハビリアプローチ

介入当初は「マッサージしてもらわないと家に帰った時に腰痛で動けなくなる」という不安をもたれ、歩行練習には消極的でマッサージを希望されていました。腰痛を軽減し、身体能力を上げていくためには、マッサージでなく運動が重要であることを説明し、リハビリを開始しました。

リハビリでは、疼痛の緩和を目的に体幹の筋力増強運動、歩行器での施設内移動を目指し平行棒や歩行器での歩行練習を実施しました。

介入当初は、腰痛により両腕を万歳するもの難しい状態でしたが、介入を重ねるにつれて動作時の疼痛は消失し、それに伴い、施設内の移動は押し車、居室内は独歩での移動、荷物を両手で抱えながらの移動ができるようになりました。



活動性の拡大に伴い、「マッサージをして欲しい」などの発言はなくなり、代わりに「足上げの運動を毎日50回しています」「家では、掃除や食器洗いをよくやっていました」などの話される事が多くなりました。現在は、食器洗いや荷物の運搬、掃除などの日常動作練習をリハビリに取り入れ、自宅退所を目指し頑張っておられます。

